

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2775002500		
法人名	医療法人 寿山会		
事業所名	グループホーム ヴァンベール2階		
所在地	東大阪市岩田町1-1-43		
自己評価作成日	平成24年3月31日	評価結果市町村受理日	平成24年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年5月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

明るく楽しい我が家をモットーに、毎月季節感を取り入れた行事を企画し楽しんで頂いております。家庭的な雰囲気の中で、その人らしさを大切に、ゆったりと楽しみ多い生活をして頂けるよう支援に努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

医療法人が経営母体であり、医療に関しては本人や家族に絶大な安心感を与えている。法人自身の経営方針についても、地域に根ざした医療を心がけ、24時間対応可能な往診専門のホームケアクリニックを併設されている。利用者は全員当ホームのかかりつけ医になっている。利用者の平均年齢は89歳と高くなり、車イス対応の方が増え、ADLも落ちてきているが全員元気で落ち着いて暮らしている。職員の離職率も低く働き甲斐のあるホームとの印象を受けた。また、管理者も職員の区別なく知らずしらずに利用者のプライバシーに触れたケアと、感じた職員がそれとなく声かけし合う等、研修では得られないチームワークがある。今後より高くステップアップするため、地域住民を対象とした認知症の勉強会や相談会を立ち上げられる予定もある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は週1回の全体朝礼で、フロア一理念を職員全員で共有し常に意識を持って業務に取り組んでいる。	昨年度の目標達成計画の一つで、引っ越しを機に職員全員で考え、「私たちはご利用者様を尊重し、信頼され安心して笑顔で暮らして頂けるように努力いたします。」と定め、各フロアに掲示し、家族や地域住民に理解を求めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所の訪問や自治会に加入し、回覧板を回して頂き地域清掃や行事(お祭り等)に参加させて頂いている。	地域自治会に加入し、色々な行事(夏祭り、だんじり他)の案内を貰い、参加している。近隣の保育園との交流も利用者の楽しみの一つである。当ホームからも地域住民に認知症を理解して貰うべく、プログラムを企画中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年より認知症プロジェクトチームを発足し、事業所内だけではなく地域の人々に認知症を理解してもらおうべく催し物を企画中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティング等で報告し意見交換を行い、サービス向上に役立てよう努めている。	昨年度は引っ越し等で多忙を極め、少し間隔が空いたが、今年度からは年6回開催の予定である。会議の内容も必要なメンバーが揃い、双方向の有意義な会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡や相談を行い、会議や研修等に参加している。	主に地域包括支援センターとはよく連携がとれている。市の事業所指導課にも訪問し、色々な相談ごとによって貰っている。東大阪市グループホーム連絡会にも市の担当課から出席して貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアを意識しているが、ホーム前が交通量の多い国道であり、ご利用者の安全を考え家族の了解のもと電子錠を設置している。	毎年の研修に取り上げたり職員ミーティングで、身体拘束禁止を徹底している。ホームの前は交通量が激しいため、玄関は施錠しているが、それをカバーする見守りケアがある。現在は身体拘束をしないケアが実現している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて学び、ミーティング等で話し合い、意識を持ってケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を持ち、現在2階では1名の利用者が活用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前より十分説明し話し合い、同意を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、積極的に声かけを行い、玄関には苦情箱を設置し適切な対応を心掛けている。	利用者から、日常生活の何気ない会話からサービスや運営に関する希望を汲み取っている。家族からは、来訪時丁寧に應對し、何でも言い易い雰囲気を作り、意見を言って貰っている。やや遠方の家族とはメールでやり取りしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員とのコミュニケーションに心がけ、日常業務中の会話やミーティングで意見を吸い上げ運営に反映させている。	職員ミーティングやフロア会議に管理者も入り、職員の意見や要望をくみ取っている。又、年2回は職員自身に「自己評価表」を記入して貰い、管理者の個別面談があり、意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で、職員満足度調査などを行い職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々のスキルアップの為、本人の希望を汲み、法人内外の研修に参加する機会を多く作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問や勉強会の機会を作り、意見交換の中からサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中での会話や談笑の合間に本人の思いを汲みとるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には積極的に声かけをし話しやすい雰囲気作りを心掛け、また意見箱を設置したりと関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話の中から要望等を汲みとる努力を行い、適切な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の支度や洗濯などを行いコミュニケーションを図っている。して頂いた事への感謝の気持ちを伝えている。人生の先輩として敬い学ばせて頂き敬意を表している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は必ず声かけをし、本人のご様子をお話し交流を持ち、家族の気持ちを共感することで信頼関係を築くよう努めている。またなにかあれば電話にて連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時には、ホームでの暮らしぶりを伝えるとともに昔話を尋ねたり声をお掛けし、再び訪問して頂けるような関係作りに努めている。	過去に利用者が培ってきた人間関係を把握し、家族の了解を得て面会等を支援している。馴染みの場所として、理・美容院、喫茶店やお店によくお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にひきこもらないよう職員が気配りし、レクリエーションや散歩・外出などを行い共に楽しんで頂けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族の迷惑にならない範囲で関係を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から職員が利用者の思いを汲みとり、利用者本位の支援ができるよう職員全員ミーティング等で話し合い共有し把握に努めている。	利用者の多くは法人の母体である病院からの紹介であり、病院で利用(予定)者や家族と面談しフェイスシートを作成し、職員全員で共有している。入居後も現状の暮らしで満足しているかどうかケアカンファレンスで検討している。しかし、自宅を訪問された例数が少ない。	病院の情報も利用(予定)者の現状を知る上で大切ではあるが、やはり利用(予定)者の生活環境や生活歴を確認する上では自宅を訪問することは大切と思えるので、今後の検討課題とされたいかかと思える。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との談話や家族との会話により、情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やカンファレンス等で情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや家族及び関係者との話し合いで意見・情報交換を行い、介護計画に反映させるよう努めている。	本人のみならず家族やかかりつけ医の要望を尊重し、フロア職員全員が参加して本人本位のケアプランを立てている。モニタリングも必ず3ヶ月に1度、ケアプラン変更の有無のチェックも6ヶ月に1度は行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を残し、職員全員が目を通すことで情報を共有し、実践や介護計画の見直しに反映させるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況及び要望に応じて連携する老健施設や有老ホームの行事に参加したりと設備を利用して柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理、美容室や商店街での買い物、近隣の公園に散歩などで地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が同意され同法人のクリニックの往診を月2回受けられている。他科受診の必要が生じた場合は希望の医療機関で受診できるよう配慮している。	利用者は契約時同法人のクリニックをかかりつけ医とする事に同意し往診を月2回受け体調の管理を行っている。特別の診療の必要な場合や以前からのかかりつけ医の受診にも対応支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で連絡が取れるようになっており、体調の変化等あれば相談できる体制が整っており、適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院が母体の為、バックアップ体制は充実している。色々な事案に柔軟に対応してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「出来ること・出来ないこと」を見極め主治医の往診とともに他の利用者に配慮を行いながらチームとしての支援をめざしている。家族には書面で同意を頂き職員全員で方針を共有している。	「看取りに関する指針、重度化した場合の対応に係わる指針」があり同意書も交わされている。支援体制を整える対応に努めている、終末期ケアに対し消極的にならず、本人、家族の希望があれば、受け止められる様な介護力を養う取り組みを計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの確認・訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを整備し周知している。消防訓練や避難訓練等、地域の消防署の協力の下行っている。地域との協力体制はまだ整っていない。	年2回、消防署の指導で避難訓練は実施している。非常災害時の対応手順、役割分担のマニュアル等もある。ただ避難経路の確認、夜間時の地震、火災等の避難訓練や地域の協力体制が課題とされる。	特に、夜間時における、地震・火災に対する避難訓練の強化や対応について、近隣住民、地域消防団の方々や運営推進会議のメンバーへの協力要請や具体的方策が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての意識を常に持ち対応をしている。法人内で待遇委員会を持ち奨励している。個人情報の取り扱いについては職員全員が周知徹底し十分注意している。	管理者から利用者の人格尊重、プライバシーの確保について適切な指導が行われている。職員は利用者を人生の先輩として誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、態度で接している。書類等の保管は適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問の仕方やゆっくり話す等工夫をしながら、本人の思いを引き出し自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者のペースを尊重し、その日の体調等に合わせて個別に配慮した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容院は本人や家族が希望している所を利用している。外出時洗髪剤や化粧品、洋服等を一緒に選び購入してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った調理を行いできるだけ自身で食べて頂けるよう配慮している。ゆったりとした雰囲気作りを心掛け、利用者の出来る範囲で配膳。下膳に参加してもらっている。	通常業者から納入の食材を調理している。土、日曜日は入居者の好みの食材を職員と一緒に買い出しに行き調理し、準備、調理、配膳、片付け等も一緒に行っている。職員も一緒に食事をし、必要な方には食事介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量ノートや飲水チェックシートを活用し、好みや状態に応じて刻み食やミルサー食、おかゆ、こぶ茶やココア等お出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の力を引き出しながら、食後の口腔ケアの支援に努めている。義歯もポリドントで洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行っているとともにプライバシーにも配慮している。	利用者の状況に合わせ、紙パンツや布パンツを併用しているが利用者ごとの排泄パターンを把握し、出来るだけ自立で排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、献立を工夫している。毎日ラジオ体操等で身体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態を見ながら週3回をめぐりに支援している。ゆったりと満足されるまで湯船につかって頂いている。入浴のない日は足湯をしている。	浴室は広く湯船も大きい、風呂は毎日沸かしており利用者の希望に添って基本週3回の入浴支援を行っている。誘導時の工夫、入浴時の会話も大切にしている。足浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に自室に戻り休息を取って頂いている。日中はなるべくレクリエーション参加を促し活動性を高め、昼夜逆転にならないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が定期薬・頓服薬を把握しており、その服薬による症状変化の観察に努めている。服薬時は必ず声を出し、職員2人で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話の中からその方の力量や好みを把握し、カラオケや貼り絵で楽しみを、また食事の盛り付け・配膳下膳、洗濯物たたみ等力を活かせる場面作りを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行ったり、外にでて余暇を楽しむ気分転換を図れる機会を出来る限り設けるよう支援している。	利用者の気分や体調と相談しながら、可能な限り、外の空気に触れるような支援をしている。天気の良い日は近隣の公園、喫茶店、スーパーなどにでかけている。希望の場所には職員と一緒に出かけるなど、出来る限り希望に添うようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などの際に職員が見守りながら本人が支払いされるなど個々に応じた対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけたり、手紙を代筆したりしている。1名の方が携帯電話を所持しておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁には利用者が作成した貼り絵・カレンダー等の作品を掲示し明るい雰囲気作りを心掛けている。カーテンは2重にし、日が差し込む時はレースのカーテンで対応している。	リビング、食堂は日当たり良く、テーブル、ソファが置かれ、壁には作り棚があり季節の飾り物、利用者の手作りの物が飾られ、落ち着いた心地良い場所となっている。キッチン是对面式でカウンター席が設けられている、トイレ、浴室も広く清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にソファを置き、気の合った利用者同士が会話・交流できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物やアルバム等を家族に持って来て頂き居室に置いて頂き、我が家となるよう工夫している。	居室は洗面所、ベッド、チェスト、空調設備がある。表札は掲げず、各々の好みに応じ暖簾を掛けて間違いを防ぐ工夫をしている。馴染みの家具・鏡台・仏壇等が置かれ1人ひとりが従来の生活の継続性が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物を置かず、廊下やトイレ、浴室等に手すりや滑り止めを設置し、分かりやすい掲示をし個々の身体機能を活かし自立した生活が送れるように工夫している。		